

大いなる御神

皆さん、おはようございます。皆さんにお会いできてうれしいです。今日から、賛美歌と題したシリーズの学びを始めます。シリーズの学びとしては変わったタイトルだと思いますが、このシリーズを思いついたいきさつをお話します。実はもともと、違った題材を考えていました。けれども、前回の私のメッセージで、信仰の成熟したクリスチャンに尋ねてみることを提案したのを覚えておられるでしょうか。今回、私は妻にそのシリーズのタイトルについて意見を求めました。妻からいくつか質問をされるうちに、私はそれがベストな題材かどうか疑問に思いはじめました。そして先週の日曜日、教会にいるときに神が私に語りかけられました。シリーズの内容を変えたほうがよいだろうと示してくださったのです。そのとき、具体的にどのような内容に変えるかは示されませんでした。帰りの電車で語るべき内容も示してくださいました。私は電車の席に座って、iPod のいろんなアルバムを見始めました。すると、しばらく聞いていなかったアルバムが目にとまりました。「古代および近代の賛美歌」というアルバムでした。いくつかの曲を聞きながら、神が私に語らせたシリーズはこれだと思いました。私をご存じの方なら、私と賛美歌の関係もご存じだと思います。幼いころから教会に通い、賛美歌に囲まれて育った私は、大きくなるにつれて賛美歌を嫌うようになりました。けれども年齢を重ねて、賛美歌の深みを味わえるようになりました。これから 4 週間のメッセージは、それぞれ賛美歌にインスピレーションを得たものです。

1715 年、フランス王ルイ 14 世が 72 年にわたる治世の後、亡くなりました。自らを偉大と称し、「朕は国家なり」という名言を残した君主としても知られます。ルイ 14 世が建造したベルサイユ宮殿はヨーロッパ一豪華で、葬儀もそれに劣らない壮観さでした。金の棺に遺体が安置され、大聖堂の灯りは棺の上に設置された特別なキャンドルのみとすることが命じられました。王の偉大さを強調するためです。葬儀では、何千という人々が静寂を守っていました。司教マシロンは語り始めると、キャンドルの灯りを消し、「神のみがおおいなるお方です」と言いました。

「輝く日を仰ぐとき」は多くの人に親しまれた賛美歌です。数年前に行われた調査では、好きな賛美歌ランキングでアメージンググレースに次いで 2 位にランクインしました。エルビス・プレスリーもこの賛美歌が好きでよく歌っていたと言われます。実は、「輝く日を仰ぐとき」はもともと歌の歌詞として書かれたものではありません。1886 年にこの詩を作ったスウェーデン人牧師のカール・ボーベリーは、自作の詩が「輝く日を仰ぐとき」として親しまれる賛美歌になるとは思いもよらなかったでしょう。誰かがこの詩に曲をつけ、教会で歌い始めたということです。後に、ドイツ語、そしてロシア語に訳されました。1933 年、イギリス人宣教師スチュワート・ハインが、ウクライナでこの歌を聞いてたましいを揺さぶられ、ロシア語の歌詞を英語に訳しました。私たちがよく知る英語の歌詞は、このときハインが訳したものです。

詩篇 48 : 1 にはこうあります。「【主】は大いなる方。大いにほめたたえられるべき方。その聖なる山、われらの神の都において。」今日は、神の偉大さについて皆さんにお話したいと思います。このメッセージを準備しながら、神の偉大さについて話すのにどこから話し始めればよいのだろうと私は考えました。神の偉大さは、他にまったく類を見ません。神の偉大さについて話すのきっかけはいくつもあります。では、どこから始めればよいでしょう。最初から話すのがたいいの場合はよいと思いますので、最初から始めることにしましょう。今日は、そこから始めます。

ポイント 1 : 創造に見られる神の偉大さ

創世記 1 : 1 「初めに、神が天と地を創造した。」最近、創造の偉大さを愛でる時間をとったことはありますか。立ち止まって世界を見渡し、神のなされたすべての御業に神の偉大さを見ているでしょうか。正直私自身も、なかなかそんな時間が取れていません。考えてみれば、神はなんともすばらしいものを創造されことに気づきます。自然に目を向ければ、神が優れた芸術家であるとわかります。ミケランジェロやモネ、ピカソは世界が誇る芸術家だと言われます。彼らの作品には何億円という値が付くのですから、偉大な芸術家なのでしょう。しかし、神の創られた作品に比べれば、彼らの作品はまったく色あせて見えます。毎日、日は昇って沈みます。日の出や夕焼けの美しさは、どんな芸術作品よりも輝いています。私の家には屋上があります。夕方に屋上に上がると、街に沈んでいく夕陽を見ることができます。その美しい彩りは、神がどれほど大いなるお方かということをおぼろげに思い出させてくれます。先日、公園に行ったとき、公園に花を植えている人たちがいました。赤や青、ピンクといった色とりどりの花が、美しい風景を織りなしていました。今は紅葉の季節です。山々は神のキャンバスのように、赤やオレンジ、黄色に染まっています。「立ち止まってバラの香りを楽しみなさい」という英語の言い回しがあります。私たちは、神の創造の美を楽しむために立ち止まる必要があります。

自然以外にも、神の偉大さを示すものがあります。動物も神の独創性を示します。私には子どもが 3 人いるので、動物園には何度も行ったことがあります。私自身、動物園に行くのが好きです。動物たちを見れば、神がクリエイティブなお方だということがわかります。また、神にユーモアのセンスがあることも動物を見ればわかります。動物園で私のお気に入りの動物はオカピです。皆さん、オカピを見たことがありますか。オカピは、頭は馬、首と胴体はキリン、そしてお尻はシマウマという姿です。長い間、これは想像上の動物で、実在するとは思われていませんでした。アフリカのユニコーンと呼ばれたほどです。見たことのない方のために、今日は写真を用意しました。とても不思議な姿をしていますが、次にご紹介する生き物をもっと変わっています。お風呂に長く浸かりすぎてふやけてしまったおじいさんのような生き物です。プロブフィッシュ（ニュードウカジカ）です。写真をご覧ください。この写真を見れば、神にユーモアのセンスがないとは言えないでしょう。神にはこのように独創的な傾向があります。その独創性は、人間の中にもっともよく表れています。神が地と地上のすべてのものをお造りになったとき、天からご覧になって、良しとされました。そして、神が人をお造りになったとき、神は天からご覧になって、とても良しとされました。今日ここから皆さんを見渡すと、それぞれ大きさや形が違います。似たところもありながら、ひとりひとりに固有の特徴があります。それでも私たちは皆、神に似せて造られた者です。私たちは、神の創造の神秘にじっくり思いを巡らしたいものです。神の創造を存分に味わえば、神が大いなるお方であることを大声で叫びたくなるでしょう。

ポイント 2 : 神の偉大な知識

次に、神の偉大な知識についてお話したいと思います。神の偉大な知識についてじっくり考えたことがありますか。ルカ 12 : 6-7 は、神の知識について語ります。「12:6 五羽の雀は二アサリオンで売っているでしょう。そんな雀の一羽でも、神の御前には忘れられてはいません。12:7 それどころか、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。」スズメはそれほど価値のある鳥ではありません。フラミンゴやクジャクのように美しい色でもなければ、ダチョウのような大きな鳥でもありません。鷹のような威厳もありません。この個所は、5 羽のスズメなら 2 円ほどで買えると言います。それでも、神はその一羽一羽を忘れておられません。価値のないものでも、神はお忘れにはならないのです。どうやってすべて覚えていられるのか、私にはわかりません。私は、その日の朝食に何を食べたかささえ思い出せないことがあります。この個所は、私たちの髪の毛も神が数えて知っておられると語

ります。ここには、髪の毛の多い人も少ない人もいます。人間には一般的に何本くらい髪の毛があるのかと思って、インターネットで調べてみました。インターネットを調べれば何でもわかります。そんな研究をした人がきつといるだろうと思っていたらそのとおりでした。人には一般的に十万本の髪の毛があるそうです。毛髪の色が薄い人は多い傾向、毛髪の色が濃い人は少なめの傾向、そして赤毛の人は一番毛髪の本数が少ないとのことでした。そんなにたくさんの毛髪の本数を、神は一人一人について把握しておられるのです。昔よりは頭が涼しくなってしまったという人も、神はその本数をご存知です。もしかすると、数えるのが少しは楽かもしれません。いずれにしろ、神の知識はすばらしいです。

エレミヤ 1:5 にはこうあります。「わたしは、あなたを胎内に形造る前から、あなたを知り、あなたが腹から出る前から、あなたを聖別し、あなたを国々への預言者と定めていた。」この個所で、神はエレミヤに語っておられます。エレミヤが造られる前から神はエレミヤを知っておられたと。このみことばをそのまま私たちに置き換えることができます。私たちが生まれる前から、神は私たちを知ってくださっていました。地上のすべての人のことを生まれる前からご存じだったのです。現在の世界総人口は 70 億人以上です。神はそのひとりひとりをご存じで、しかも生まれる前から知っておられたのです。それに、今までに生まれたすべての人間を足すと、おびただしい数です。今日ここには 100 人くらいの方がいらっしゃいますが、正直なところ、私は名前を知らない方もいます。一方、神は 70 億人全員を覚えておられるのです。

皆さん、最近空の星を見上げたのはいつですか。都会ではなかなか星は見えませんが、聖書は星についてこのように語ります。詩篇 147:4 「主は星の数を数え、そのすべてに名をつける。」イザヤ 40:25 「それなのに、わたしを、だれになぞらえ、だれと比べようとするのか」と聖なる方は仰せられる。 40:26 目を高く上げて、だれがこれらを創造したかを見よ。この方は、その万象を数えて呼び出し、一つ一つ、その名をもって、呼ばれる。この方は精力に満ち、その力は強い。一つももれるものはない。」このみことばは、神が星に名前をつけ、毎晩その名を呼ばれると語ります。神の知らないうちに消滅する星はひとつもないと言います。研究によると、古代イスラエルでは約 5,000 の星が肉眼で見えただろうと言われます。神が 5,000 の星を覚えておられたというのは驚くべきことですが、現代の天文学によると、私たちの住む銀河系だけでも 4,000 億の星があると推定されています。この宇宙には約 1,250 億の銀河があり、宇宙全体の星の数は 1000 億個の 1000 億倍と言われます。神がこれらの星のひとつも忘れることがないと聖書は語ります。1000 億個の 1000 億倍の星の名を毎晩呼ばれるのです。神の創造の御力と知識のみを取っても、神は賛美し敬愛すべきお方です。

ポイント 3：神の大いなる愛と恵み

神が大いなるお方であることを話せば尽きないでしょう。神は果てしなく偉大なお方です。中でも、その偉大さがもっとも際立つのが神の愛と恵みです。ローマ 3:23 は、「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、」と語ります。一方、ローマ 6:23 には、「罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」とあります。私たちは皆罪人です。神の栄誉を受けることができません。ここにいるすべての人が神の栄誉を受けることができないのです。罪のゆえに、私たちの報いは霊の死であると神はおっしゃいます。霊の死とは、永遠に神から引き離されることです。罪の罰を帳消しにする力は私たち自身にはありません。どうすることもできないのです。どんなに良い行いをして、犯した悪事をなかつたことにはできません。今日は悪いことを 7 つしてしまったから、明日良いことを 8 つすればよい、こうして悪事はいずれ忘れられていくのだ、と言うことはできません。また、たい

ていの場合、悪いことのほうがたくさんしてしまいます。しかし、神は私たち人類を愛し、ご計画を立ててくださいました。私たちの罪の罰を肩代わりするご計画です。このご計画は、赤ちゃんが生まれるところから始まります。来月にはクリスマスを迎え、私たちはイエスのご降誕を祝います。イエスは、御父の右の座という栄光を自ら手放し、赤ちゃんとなってくださいました。後にこの世を救う救い主となる赤ちゃんです。この世に来られるためにイエスが払われた犠牲を考えてみてください。御父の右の座はイエスの永遠の居場所です。にもかかわらず、私たちへの愛のゆえに、そのすべてを捨ててくださいました。私たち人間の間に住まわれるためです。

ヨハネ 3 : 16 「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」神はこの世を深く愛されたので、御子を犠牲として与えてくださいました。私たちが永遠に生きることができるためです。イエスは、誰かのために命を投げ出すほどの愛はほかにないとおっしゃいました。主はまさにそのことを私たちのためにしてくださったのです。私が自分の命を投げ出そうと思えるのはとても限られた人たちだけです。私の愛する人たちです。私に悪いことをした人のために、自分の命を犠牲にしようとは決して思いません。けれども、それがイエスのなさったことです。私たちのためにご自身の命を差し出されました。十字架上で御手を広げられたのは、誰かに強制されたからではありません。私たちの罪の重荷を肩代わりするために、自ら御手を広げられたのです。神の犠牲の大きさを考えたことがありますか。私たちがまだ罪の中にあつたときに、神は私たちを愛してくださいましたと聖書は語ります。神がまず私たちを愛してくださいました。私たちがイエスを選んだのではなく、神が私たちを選んでくださいました。罪の中に死んでいた人を選び、深く愛して、ご自身の御子をいけにえとしてくださいました。「輝く日を仰ぐとき」の3番の歌詞をお読みします。

御神は世人(よびと)を愛し 一人の御子を下(くだ)し
世人の救いのために 十字架にかからせたり
我が魂(たま) いざたたえよ おおいなる御神を
我が魂 いざたたえよ おおいなる御神を

今日のメッセージからたったひとつのことを学ぶとするなら、ぜひこのことを学んでください。神はあなたを深く愛し、その愛のゆえに御子を究極のいけにえとされました。私たちが神の子となることを神は強く望まれ、御子を犠牲となさいました。それは、私たちがクリスチャンと呼ばれるためです。キリストを救い主として受け入れるなら、私たちは神の家族の一員として迎えられます。私たちは神の息子、娘となるのです。

クリスチャンの皆さん、今日皆さんにお勧めします。神の偉大さを感じてください。神の被造物を新たな目で見、どれほどすばらしいか気づいてください。神の無限の知識を称えてください。あなたの名を知ってくださることを感謝してください。そして何より、赦されていることを喜びましょう。いのちの書に名前が記されていることを喜びましょう。大いなる愛と恵みに出会ったことを喜びましょう。イエスを知る喜びや神の大いなる愛と恵みをまだ知らないという人は、今日ぜひ知っていただきたいと思います。礼拝後、ホール後方の Lift という看板のところに係の者が待機しています。神の愛と恵みの喜びをどのようにして自分のものにするかお伝えします。神は、皆さんを神の家族に迎えたいと待っておられます。今日が、神の偉大さを知る日となりますように。祈りましょう。